

～ファシリテーショントレーニング～

日時 平成 28 年 11 月 3 日 13:30～17:00

場所 名古屋都市センター 11 階ホール

■ 講座概要

まちづくり活動に関わりのある方を対象に、住民参加のまちづくりについて、様々なまちづくりの実践者からの講演やワークショップを進めるうえでのファシリテーション技法などを実践的に学ぶ講座を開催しました。

第1回は、まちづくりに必要なファシリテーション技法を様々な手法を用いてスキルアップを目指すもので、講師には、平成 25・26 年度の地域の“まちづくりびと”養成講座 入門編の講師である株式会社対話計画 共同代表の葛山 稔晃さんを迎え、13 名が受講しました。

■ 講師紹介



葛山 稔晃 さん

株式会社対話計画 共同代表。一級建築士。

モリコロパークの再整備構想や津島市の環境基本計画、長久手町中央地区のまちづくり基本構想を始め、市民参加のまちづくりや緑地計画に関する調査、ワークショップの運営経験を持ち、市民活動や自治会など多方面で活躍されています。

■ おはなし会

講座開始時、受講生と講師が円形に配置された席に座りました。

そして講師から今回の講座のねらいと自身の地域活動を通じての気づき、講座の留意点として相手の話に向けて聴く傾聴や限られた時間の中でワークを行う時間管理などに気を付けて受講してもらえるよう話がありました。



■ アイスブレイク

ワークショップなどを進める前に参加者の緊張を解きほぐし、場の雰囲気をもたらし、アイスブレイクを体験しました。

「後出しじゃんけん」

まず手始めに、道具を使用しなくても出来るアイスブレイクで、講師が出した手に対して受講生が勝ったり負けたりするように手を出す後出しじゃんけんです。

右手や左手で交互に行くと、なかなか思ったとおりに手を出すことが出来ず、単純だが気分を解きほぐすのに効果的で、皆さん楽しんでいました。

「旗揚げアンケート」

手を挙げて意見や気分を示してもらうことが難しい際に、旗という道具を使用することで、いろいろな質問を示しやすくして場を和ませると共に、相手の気持ちを知ることができるものです。

受講生に割り箸と色紙でつくられた色違いの旗を配り、「今の緊張度合いは？」という問いに対して赤色「少し緊張している・不安」、青色「楽しみでワクワクしている」、緑色「午後からで眠い」、黄色「その他(○○な気持ち)」のどれに該当するかを挙げてもらうなど、様々な質問がありました。



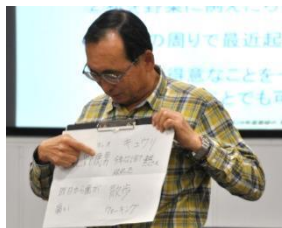
「お互いの似顔絵を描こう」

2人1組になった受講生同士で、相手の名札に相手の似顔絵を描きました。「○(マル)」「×(バツ)」「△(サンカク)」のみを用いるという条件のもと描いていくと、絵心の有無に関わらず、個性豊かでユニークな絵となることでした。



「フリップスピーチ」

A3サイズの紙を四つ折りにし、折り目を付けたあとの4つの面に自己紹介等を記入し、発表するものです。講師からお題として「名前」「私を野菜に例えると」「自分の周りで最近起きた出来事」「自分の得意なこと」が出され、受講生は笑いや真面目な事柄を交えて自己紹介をされました。



■ワークショップ① ファシリテーショングラフィック～議論を描こう！～

アイスブレイクで場の雰囲気が和んだところでグループ分けをし、みんなで机・イスを移動させて、ワークが出来る状態にし、議論を進めていくうえで、議論を見える化、活性化させる方法のひとつとして用いられるファシリテーショングラフィックについて演習を行いました。

物事を絵で簡単に表したり、強調したりする際に用いる「アイコン」を描く演習を行い、「花と太陽」「戸建とビル」「乗用車とバス」「困った顔とうれしい顔、悲しい顔」など、まちづくりの議論で多く挙がりそうなものを書いていきました。

講師から、アイコンは描きたいものの特徴やポイントをおさえて簡単に描けるように、そしてグループ内で描いたものを見せ合う際は批判・否定はせず、褒め合いながら意見を言うことが伝えられました。



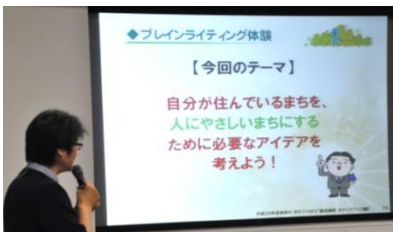
次に、文字を描いていくときのコツとして、サインペンの太字側、細字側の使い分けや活用方法、文字を強調する場合の色の合わせ方などの例示がありました。

これまでの内容を踏まえて、フリップスピーチで描いた自己紹介の内容をアイコンや文字の強調などを合わせて、再度描く演習を行いました。

皆さん最初に描いたものと比べると、とてもにぎやかで親しみが持てるフリップとなっていました。



■ワークショップ② KJ法の本質を学ぼう！



いいアイデアを書き加えていきます。

アイデアを書くテーマは「自分が住んでいるまちを、人にやさしいまちにするために必要なアイデアを考えよう！」というお題が出され、十数分の間、5ラウンドごとに3つのアイデアを受講生が集中して用紙へ記入し、グループ毎に75個のアイデアが出されました。



講師からは、他の方がアイデアを理解しやすいように文脈づけて記入するよう伝えられました。

用紙に書かれたアイデアをもとに、KJ法を用いてワークを行いました。

まず、グループ内で進行役、時間管理役を決めます。次に、模造紙上で、出てきたアイデアで関連や類似するものをグループ化し、グループ化したものをあらわすタイトルを記入し、グループ化した要素間の関係性を考え、図解化します。そして、それらを眺めながら、新しいアイデアを生み出すことができるよう進めていきました。



最後に各グループから導き出されたアイデアなどを発表してもらいました。グループ毎に模造紙に挙げられたタイトルは異なっており、考えや意見が様々にあることが分かりました。



■ ふりかえり～まとめ

講師からKJ法について、同じタイトルでグループ化した要素でも、グループ間の関連付けの仕方や視点の向け方によって、アイデアや考え方の幅を広げることができると話されました。また、ひとつのタイトルに注目し、例えばイベントの開催の場合、「どんなイベントなのか？(内容)」「どのように行うのか？(方法)」「いつ行うのか？(時間)」など5W1Hの考えを加えることで、新たな発想とつなげることが出来ることも伝えられ、第1回は終了しました。

